

福岡大学

学園通信

人と夢を紡ぐ
コミュニケーションマガジン

47

October, 2014



「心ゆたかに」

自分で見つける。仲間と見つけ合う。
充実した日々が、心を成長させる。

FUKUOKA UNIVERSITY

「心ゆたかに」

広大なキャンパスを彩るのは、
可能性にあふれた多くの個性。

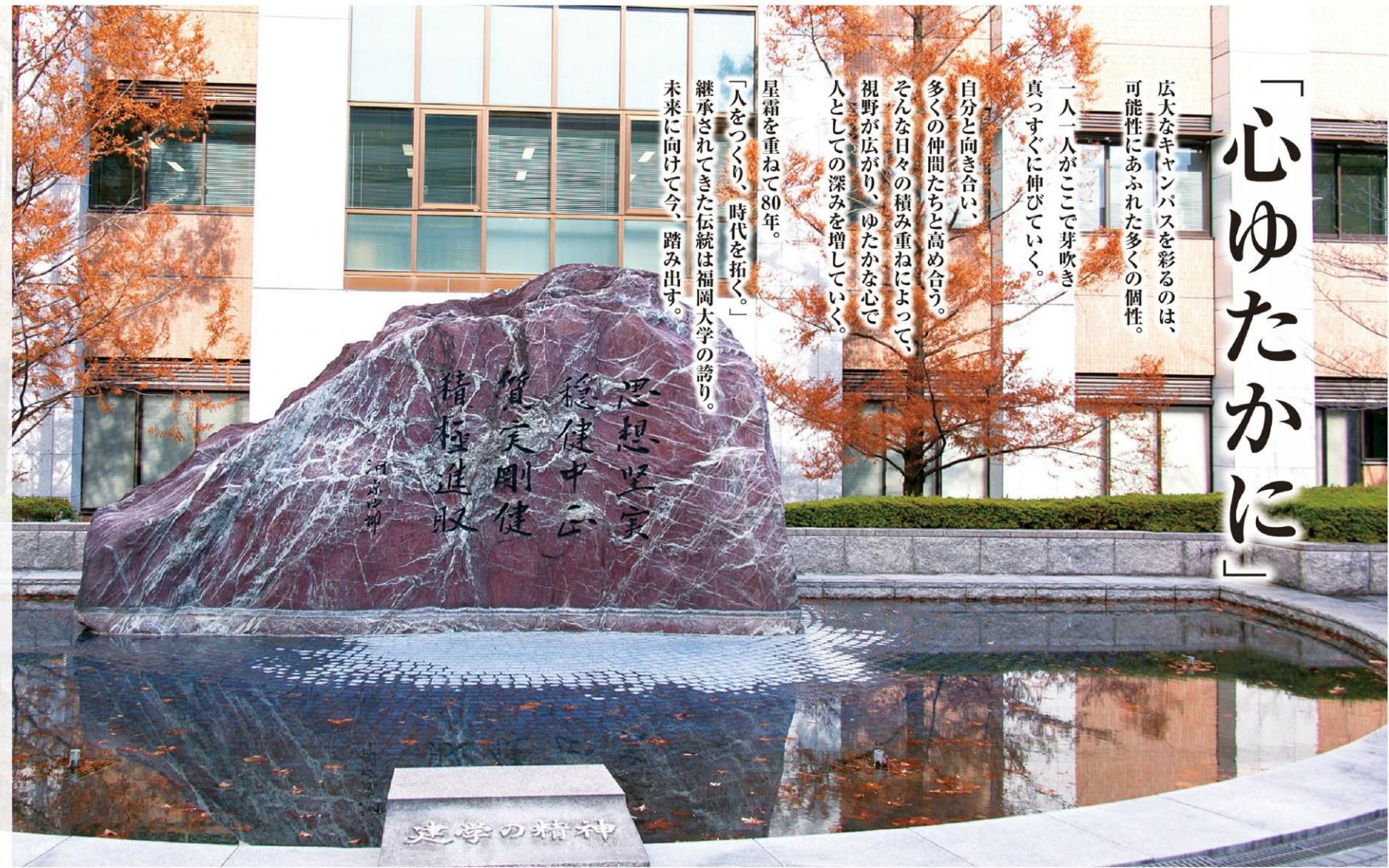
一人一人がここで芽吹き
真っすぐに伸びていく。

自分と向き合い、
多くの仲間たちと高め合う。

そんな日々の積み重ねによって、
視野が広がり、ゆたかな心で
人としての深みを増していく。

星霜を重ねて80年。
「人をつくり、時代を拓く。」

継承されてきた伝統は福岡大学の誇り。
未来に向けて今、踏み出す。



建学の精神

思想堅実・稳健中正・質実剛健・積極進取

教育研究の理念

- 「人材教育」と「人間教育」の共存
- 「学部教育」と「総合教育」の共存
- 「地域性」と「国際性」の共存

福岡大学の 三つのポリシー

福岡大学は、「建学の精神」に基づいた全人教育を目指として、「教育研究の理念」に掲げる三つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、柔軟で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを使命としています。地域に密着し、地域と融合した総合大学として、コミュニケーションを大切にし、社会から信頼される人材を育成します。

アトミックジョンボリシー

本学の「建学の精神」を理解した、次のような人たちを広く国内外から受け入れます。

- 1 考え方がしっかりしており独創や偏見にとらわれない生き方を求める人
- 2 溫和で包容力がありバランス感覚に優れた能力を身につけたい人
- 3 誠実で責任感が強く何事にも屈しない人生をめざす人
- 4 新しいこと、困難なことに自ら進んで取り組んで行こうとする人

カリキュラムボリシー

本学の「教育研究の理念」に基づき、すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」の二つを大きな柱とし、それぞれの学部学科の教育目標にあわせたカリキュラムを構成します。また、正課外教育においても、充実した各種教育プログラムを開催し、全教職員で本学学生の人的成長を支援し、全人教育を実現します。

- 1 全学に提供する共通教育科目をとおして、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成
- 2 各学部学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能を高め、社会の進歩や変革に応え得る深い学識を有する人材を育成
- 3 様々な教育プログラムをとおして、国際性と地域性を兼ね備えた21世紀に通用する人材を育成

ディプロマボリシー

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。

- 1 修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決する力
- 2 職業生活・社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力
- 3 自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる力

41 38 33 31 29 平成25年度
学校法人福岡大学収支決算

なくま通信
暮らすめいと
ななくま通信

FUKUDIARY

学びも趣味も深まるため、「
学びも趣味も深まるため」、「
よく話して育むから、未だにつながる研究へ」

福岡大学の医療展開ニュース

地域医療連携センター長（福岡大学病院副病院長）

中島衡教授

医療情報監修

志村英生教授

地域の医療をより多くのセミナーを定期的に開催

ヒポクラテスの系譜

福岡市港南区皮膚科診療部長

今福信一教授

日本プロセス株式会社 一ツサービス事業部

伊勢崎敬志さん

日々の臨床から、未だにつながる研究へ

地域医療連携センター長（福岡大学病院副病院長）

中島衡教授

医療情報監修

志村英生教授

地域の医療をより多くのセミナーを定期的に開催

就活メモリー

福岡市港南区皮膚科診療部長

今福信一教授

日本プロセス株式会社 一ツサービス事業部

伊勢崎敬志さん

日々の臨床から、未だにつながる研究へ

地域医療連携センター長（福岡大学病院副病院長）

中島衡教授

医療情報監修

志村英生教授

地域の医療をより多くのセミナーを定期的に開催

情熱の証

福岡市港南区皮膚科診療部長

今福信一教授

日本プロセス株式会社 一ツサービス事業部

伊勢崎敬志さん

日々の臨床から、未だにつながる研究へ

地域医療連携センター長（福岡大学病院副病院長）

中島衡教授

医療情報監修

志村英生教授

地域の医療をより多くのセミナーを定期的に開催

時代を駆ける先輩たち

福岡市港南区皮膚科診療部長

今福信一教授

日本プロセス株式会社 一ツサービス事業部

伊勢崎敬志さん

日々の臨床から、未だにつながる研究へ

地域医療連携センター長（福岡大学病院副病院長）

中島衡教授

医療情報監修

志村英生教授

地域の医療をより多くのセミナーを定期的に開催

講義ライブ90分【特別編】

福岡市港南区皮膚科診療部長

今福信一教授

日本プロセス株式会社 一ツサービス事業部

伊勢崎敬志さん

日々の臨床から、未だにつながる研究へ

地域医療連携センター長（福岡大学病院副病院長）

中島衡教授

医療情報監修

志村英生教授

地域の医療をより多くのセミナーを定期的に開催

研究室を訪ねて

福岡市港南区皮膚科診療部長

今福信一教授

日本プロセス株式会社 一ツサービス事業部

伊勢崎敬志さん

日々の臨床から、未だにつながる研究へ

地域医療連携センター長（福岡大学病院副病院長）

中島衡教授

医療情報監修

志村英生教授

地域の医療をより多くのセミナーを定期的に開催

充実 CAMPUS LIFE

医学部医学4年生

浅田 遼さん

福岡大学のグローバル化への取り組みを紹介します。

Global F

福岡大学のグローバル化への取り組みを紹介します。

特集

「心ゆたかに」

【創立80周年記念特集】
福岡大学長期ビジョン
2014-2023
未来社会に向かって。
人をつくり、時代を拓く。

CONTENTS No.47 October,2014



**福岡大学
学園通信**
人と夢を結ぶ
コミュニケーションマガジン
「福岡大学学園通信」は、人と夢を結ぶ
在学生のためのコミュニケーション誌。そ
して福岡大学の現状や学生の活躍、医療
活動などを掲載する広報誌です。在学生
だけでなく、保護者の皆さま、地域の皆さ
まなどにも広くご覧いただけます。

創立80周年記念特集

「福岡大学ビジョン 2014-2023」を策定

2014年、福岡大学は創立80周年を迎えました。本学の発展に寄与してこられた多くの皆さま方に深く感謝申し上げます。この長い歴史を振り返ると、時代の要請に応えながら着実に新しい枠組みを付加し、段階的にダイナミックな発展を遂げてきた本学の確かな歩みが見えてきます。

戦中戦後の激動の時代を乗り越えた初期成長期。戦後の高度成長と軌を一にして拡大・成長し、現在の9学部体制を確立した急速成長期。教育・研究・医療・地域連携など幅広く改善・改革を重ね、西日本を代表する総合大学の名にふさわしい存在感を確立し、今日に至った充実発展期。どの時代、どの局面にも、揺るぎない意志と行動力で歴史を築かれた先達の努力や地域の力強い支えなくして、本学の発展を語ることはできません。



本学では今後10年間の活動指針として、「福岡大学ビジョン2014-2023」を策定いたしました。長期ビジョンでは、20年後に控えた100周年を見据えつつ、グローバル化と価値観の多様化が進む時代の中で、本学が進むべき方向性を示した4つの重点項目を定めています。これは、今後10年間のみならず、さらなる将来への道しるべとなるものです。

本学は、輝ける未来を創造していくために、「福岡大学ビジョン2014-2023」のもと、「人をつくり、時代を拓く」大学として邁進してまいります。

福岡大学長 衛藤 阜也

福岡大学 長期ビジョン

2014-2023

未来社会に向けて
人をつくり、時代を拓く。

福岡大学のあゆみ

1934年4月	福岡高等商業学校を創立	1972年4月	医学部(医学科)を増設
1944年4月	福岡高等商業学校と九州専門学校(跡弘文学舎設置)を統合し、九州経済専門学校を設立	1973年8月	福岡大学病院を開設
1946年4月	福岡経済専門学校と改称	1976年4月	理学研究科応用物理学専攻および化学専攻の各博士課程を増設
1949年4月	福岡経済専門学校と福岡外事専門学校(跡福岡外国語学園設置)を統合し、福岡商科大学(商学部商学科)を設立	1978年4月	医学研究科人間生物学専攻、感染生物学専攻、病態構造系専攻、病態機能系専攻、病態生化学系専攻および社会医学系専攻の各博士課程を増設
1953年4月	商学部第二部(商学科)を増設	1982年4月	人文科学研究科英語学英米文学専攻および仏語学仏文学専攻の各修士課程、理学研究科に応用数学専攻修士課程を増設
1956年4月	福岡大学と改称 法経学部(法学科・経済学科)を増設	1985年6月	福岡大学筑紫病院を開設
1959年4月	法経学部を分離し、法学部(法律学科)および経済学部(経済学科)を増設	1990年4月	理学研究科に応用数学専攻博士課程、工学研究科に電子工学専攻および建設工学専攻の各修士課程、体育学研究科体育学専攻修士課程を増設
1960年4月	薬学部(薬学科)を増設	1998年4月	工学部電子工学科を改組して電子情報工学科、体育学部を改組してスポーツ科学部(スポーツ科学科・健康運動科学科)を増設
1962年4月	工学部(機械工学科・電気工学科)を増設	2003年4月	体育学研究科体育学専攻をスポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻に改称
1965年4月	大学院(法学研究科民刑事法専攻および経済学研究科経済学専攻の各修士課程)を設置	2004年4月	法曹実務研究科法務専攻専門職学位課程(法科大学院)を増設
1968年4月	商学研究科商学専攻および薬学研究科薬学専攻の各修士課程を増設	2012年4月	留学生別科を設置
1969年4月	人文学部(文化学科・英語学科・仏語学科)および体育学部(体育学科)を増設		
1970年4月	理学部(応用数学科・応用物理学科・化学科)を増設 商学研究科に商学専攻博士課程、工学研究科機械工学専攻および電気工学専攻の各修士課程を増設		

福岡大学ビジョン 2014–2023



福岡大学ビジョン2014–2023

福岡大学は、九州に位置する総合大学として地域との絆を大切にしつつ、時代や社会の要請に応じて教育・研究・医療の拠点として広く社会に貢献します。特に、次の4つを重点項目とします。

- VISION 1** 時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供
- VISION 2** 先進的で高度な研究活動の遂行
- VISION 3** アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成
- VISION 4** 福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

長期ビジョンの背景と必要性

福岡大学は、1934年創設の福岡高等商業学校を起源とします。九州経済専門学校、福岡経済専門学校を経て1949年に福岡商科大学に昇格し、1956年に福岡大学と改称しました。現在では、9つの学部と10の大学院研究科を擁する西日本で最大規模の総合大学であり、2つの大学病院、2つの附属高等学校、1つの附属中学校を有し、教育・研究・医療の一大アカデミック拠点となっています。

建学の精神として「思想堅実」、「穩健中正」、「質実剛健」、「積極進取」を掲げ、それに基づいた全人教育を理想としています。さらに、教育研究の理念として「人材教育(Specialist)」と「人間教育(Generalist)」の共存、「学部教育(Faculty)」と「総合教育(University)」の共存、「地域性(Regionalism)」と「国際性(Globalism)」の共存を標榜しています。この3つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを目的としています。本学は、以上のような建学の精神と教育研究の理念に基づいて、これまで社会を支える有為な人材を数多く輩出してきました。

今日、大学を取り巻く環境は大きく変動しています。人々の価値観や社会的ニーズの変化、人口動態の変化、グローバリゼーションの進展などがその要因です。このような中で、本学が教育・研究・医療という与えられた使命を全うし、これまで以上に社会に貢献していくために、今後10年間の活動指針として「福岡大学ビジョン2014–2023」を策定しました。



VISION 3

アジア諸国との関係を中心にして行う グローバル人材育成

経済のグローバル化が急速に進む中で、グローバル人材の育成は大学の重要な任務となっています。本学では、アジアの玄関口としての福岡の特性を重視し、アジア諸国との関係を中心にグローバル人材教育を行っています。アジア諸国を中心にはじめ、日本から優秀な留学生を積極的に受け入れ、日本人学生への刺激とします。アジア諸国の大学を中心に語学研修と留学の受け入れ先を用意して日本人学生を海外に派遣し、国際的な視野と活動能力をもつグローバル人材を育成します。



これまでの取り組み事例



2013年から始動した「グローバル・アクティビティ・プログラム(GAP)」の釜慶大学校での研修。



毎年開催しているアジア圏協定校との学生交流セミナー。



2014年8月、海外インターンシップで16人の学生をベトナムへ派遣。

VISION 1

時代の要請や社会のニーズに対応した 教育・研究・医療の提供

時代の動きとともに社会情勢は大きく変化し、それともに教育のあるべき姿、必要な研究、求められる医療も変わろうとしています。教育に関しては、社会の求める知識・能力・人間性を認識し、それらを備えた人材の育成に努めます。研究においては、社会のニーズを敏感に受け止め、社会的に意義のある研究を遂行し、その成果を社会へ還元します。医療においては、西日本有数の特定機能病院、地域医療支援病院のもとで、社会の求められる質の高い「あたたかい医療」を提供します。



これまでの取り組み事例



教員との双方向的な教育を受けられる少人数のゼミ「教養ゼミ」。



環境大臣表彰に輝いた松藤教授による「紙おむつリサイクル報告会」。



2014年に新設した二次救急に対応する急诊診療部(ACC)。

VISION 4

福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

本学は、福岡の地で地域社会との密接な関係の中で発展してきました。これからも地域との絆を重視して、社会の中核を担う人材の育成、地域の産業界との産学連携事業の展開、市民向けの啓発活動や教育文化活動などによって地域に貢献し、地域の活性化と発展に寄与していきます。



これまでの取り組み事例



2014年3月13日、福岡市と本学が連携協定を締結。



地域住民の方々と協力して防犯ボランティア活動を行う学生組織「なくま元気につく隊」。



本学の教育・研究・医療の成果を基に地域へさまざまな教育プログラムを提供する「福岡大学市民カレッジ」を設置。

VISION 2

先進的で高度な研究活動の遂行

本学は、これまで人文・社会科学、理・工学、薬学、医学、生命科学の諸分野で数多くの研究成果を上げてきました。今後とも、真理を探求し学問の発展に寄与することを大学の責務とし、先進的で高度な研究活動を遂行しその研究成果を世界に発信していきます。



これまでの取り組み事例



てんかん分子病態研究所の研究グループがてんかんのiPS細胞の作成を世界に先駆けて成功。



糖尿病の臍島移植治療についての記者会見。



「福岡から診る大気環境研究所」は、越境汚染の実態と健康への影響の解明を目指す。



法学部 准教授 烟中 久彌

ディスカッションにおいて気後れすることや、思うように研究が進まないときもありましたが、自分で全てを解決しようと殻に閉じこもる

海外でさまざまな経験を

です。

- 現地に住む人と接点を持ち、自分の希望にかなう機会や場に積極的に出向く。
- 人と比べず、今の自分が発揮できる能力で最大限のパフォーマンスを心掛ける。
- 恥ずかしがらず、失敗を恐れず、飛び込んでみるが大切。
- 分からぬときは、うまくいかないときは、閉じこもららず、人に相談してみる。

2011年の夏から1年間、在外研究としてフィンランドに滞在しました。日本の民法は北欧から強く影響を受けた問題があり、現地で、さらに研究を進めたいたいと思っていました。また、日本と法学ではドイツ、フランス、アメリカ、イギリスの法律が盛んに研究されていますが、北欧に目を向ける研究者は少なく、未知の部分が多いことも魅力でした。

**新しい自分に出会うため
一歩踏み出してチャレンジしよう**

海外レポート②
渡航地: ヴィンテント(トゥルク大学)

人で渡航、英語での日常会話などになりました。事前に学習していただけます。ラント語では最低限度の自分の意地を伝えることはできましたが、地元の人々の言葉を聴き取ることの容易さはありませんでした。日本人人と共通していたのは、少しちゃいで穏やかな人が多く、義理人情に厚い点です。食文化や宗教観に大きな差を感じることはありませんでした。たが、子どもの誕生日会、研究者仲間との交流などホームページで多くの機会が多いのは海外らしさの

じむ上で背中を押してくれたのは、日本人オーナーが當む和食料理店。邦人同士の情報交換の拠点となっていたため知り合いが増え、この店での出会いが縁で、フィンランドでの文化について深く学ぶ機会にも恵まれた。この中でも最も印象的だったのが、

案するより産むがやすしの精神で不安を払拭する

学生時代も含め、海外に長期滞在したのはこの時が初めてでした。私はどちらかといえば引っ込み思案。チャレンジ精神に富むタイプではないで、出発前には自分の語学力や研究者としての技量が全然足りない



会話が尽きなかった友人たちとのホームパーティ



見学先の寺院で、福大生とバディたちと記念撮影

福岡大学は、グローバル人材の育成を積極的に推し進めています。今回は、海外留学を経験した人文学部生の和田さんと、在外研究でフィンランドに滞在した畠中先生に、現地に行つたからこそ得られた知見や自己の成長について語っていただきました。海外で活躍できるグローバル人材とは何か、グローバル人材になるためには何を学ぶべきかというこのヒントが2人の体験談から見えてきます。

海外に行くことを二ヶ月にせずそこで何を学びたいかを明確に

2年次の夏

2年次の夏に2週間の韓国留学が決まって以来、昼休みは文系センター棟1階で開かれる[English Plaza]に参加します。外で遊びたいという気持ちを秘め、福岡大学に入学した和田さん。入学式の日に「グローバル・アクト・プログラム(GAP)」の資

元々日本の先生や語学力の高い学生と英語でコミュニケーション

を取り、練習を重ねました。

これまでの沿革等、一概に言はざるが、この度胸が付いたこと。國対國ではなく人対人で付き合えば文化の豊かさを感じる事和感がある。



人文学部文化学科 2年次生
和田 捺希さん

A photograph showing a man wearing a traditional Indian turban and a plaid shirt, smiling and using chopsticks to eat from a bowl. Another man is visible in the background, also smiling. They appear to be in a restaurant setting.

トゥルク大学で親交を深めたインド人の研究者と一緒に

も、慣れない土地での恥ずかしさや失敗することへの恐れを捨てて、日々の暮らしや語学に挑むことで成長を実感することができました。自分を閉じ込めてきた執着やこだわりを捨て、今目の前に広がる環境の中で新しい自分に出会い、そんな体験を皆さんにもしていただきたいと思います。

校ではバディと呼ばれる世話役5人と一緒に、毎日英語の授業とアクティビティと呼ばれる課外活動を行いました。アクティビティでは、韓国伝統の素材を使つた工作や寺院ラジオ局の見学などを体験。会話は基本的に英語。韓国も日本も本格的な英語教育は中学校からなのに、彼らの英会話のスピードは私は比べ物にならないほど早く、流ちょうでした。しかし、授業は対話を軸に進んでいくので、拙いからと諒めず、ジェスチャーを交えながら何



韓国の伝統的な紙を使ってペン立てを制作

コンクリートの「主治医」として 構造物の耐久性と安全性を追求

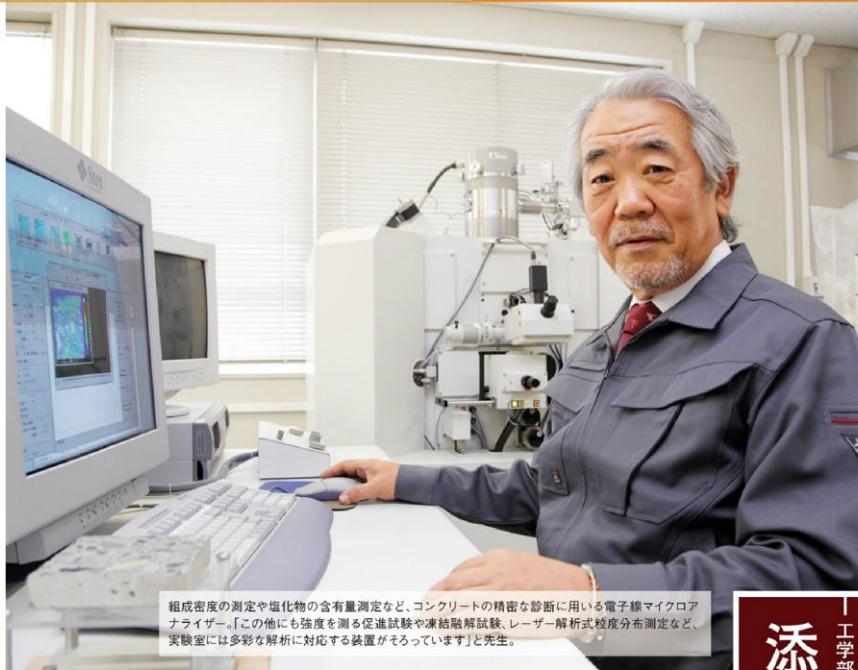
研究室を訪ねて



経年劣化したコンクリートの様子。構造物の劣化診断を行い、適切な維持管理を指導。

廃棄物の有効利用も、近年の主要な研究テーマの一つです。再生骨材の透水性コンクリート舗装への利用研究や、再生材料利用に関するJIS（日本工業規格）の制定といった学芸活動もその一例。火力発電所から生じる特殊な石炭灰をコンクリート補修材に用いる研究では特許も取得しています。「長寿命化や再生利用など、研究テーマこそ多岐にわたりますが、共通するのは耐久性向上という不变の目標です。土木工学の理想は、実現に向けて、あらゆる角度からアプローチを重ねることが研究を志した者の使命であり、責任です」。

「テックドクター」として
コンクリート構造物の
自然災害や不具合を診断する



組成密度の測定や塩化物の含有量測定など、コンクリートの精密な診断に用いる電子線マイクロアナライザ。この他にも強度促進試験や凍結融解試験、レーザー解析式粒度分布測定など、実験室には多岐な解析に対応する装置がそろっています」と先生。

添田 政司
工学部 教授

「100年の耐久性」を
実現するためには
幅広い研究に取り組む

ダム、橋、道路やトンネル、そしてビルなどのあらゆる社会基盤（インフラ）に用いられるコンクリートは、私たちの安全な暮らしを根底から支える建築資材です。そんなコンクリートの耐久性に関する研究をライフワークとする添田先生。先生は棚に置かれた資材サンプルを一つ手に取って説明してくれました。「これは水に浮く超軽量コンクリート。耐久性も十分です」このボトルに入っている粒体は、都市ごみを高熱で処理した溶融スラグ。コンクリートの骨材として再利用されます。穏やかなまなざしと語り口は長年の研究成果への自負、そして社会基盤を支える使命感がうかがえます。先生がコンクリートと生涯向き合うきっかけとなつたのは、中学生時代に見

研究室で 先生モノ語り

つややかなコンクリートの 断面ほど美しいものはない

添田先生が手にしているのは、コンクリートの断面を小さく切り取った供試体。各種測定装置でコンクリートの組成や粒度を調べる際、細かく研磨して用います。「見てください、実際に健健全なコンクリートです。骨材の砂利と砂利の間を、塩を抜いた海砂とセメントがしっかりとつないでいます

す。強くて頼もしいコンクリートの特性が断面に集約されています。これほど美しいものは他にないと思います」。先生の言葉には、コンクリートへの尽くす愛着があふれています。

「これをしっかり磨いて測定機に、コンクリートを学ぶ学生が最初に得体する作業です」。

の主治医として、構造物の劣化診断を行なう適切な維持管理を図る努力が求められています。今まで見た間に合わせます」。今ならまだ間に合うのです。今後も、今よりもっと構造物を今後の最優先課題と位置付ける先生は、近年、各地の構造物視察や施工技術者向け技術研修会講師など、学外でも精力的に活動しています。国土交通省の「テックドクター」（被災地へ派遣され指導・助言を行う学識経験者）にも任命されており、自然災害時や構造物に不具合が見つかった際には、診断のオフナーが寄せられます。現地へ着くと、現場をつぶさに見なければコンクリートの本質は分からせません。ですから現場視察の際には極力、学生や若手教員を連れて行きます。私がコンクリートについて学んだことの全てを彼らに伝え、後進ができるだけ多く育てたい。それが教育者としての最大の使命です」。



国土交通省の「テックドクター」として現場へ。「撮影した写真は全て研究資料として学生に見せます」。

た映画『黒部の太陽』でした。「誰も足を踏み入れたことのないような山中に巨大ダムを建設する。そのスケールの大きさに圧倒されました」と、先生は当時の感動を振り返ります。感動は長じても色々なあらゆる社会基盤（インフラ）に用いられるコンクリートは、私たちの安全な暮らしを根底から支える建築資材です。そんなコンクリートの耐久性に関する研究をライフワークとする添田先生。先生は棚に置かれた資材サンプルを一つ手に取って説明してくれました。「これは水に浮く超軽量コンクリート。耐久性も十分です」このボトルに入っている粒体は、都市ごみを高熱で処理した溶融スラグ。コンクリートの骨材として再利用されます。穏やかなまなざしと語り口は長年の研究成果への自負、そして社会基盤を支える使命感がうかがえます。先生がコンクリートと生涯向き合うきっかけとなつたのは、中学生時代に見



コンクリートの強さを調べるために、養生室にはたくさんの実験用供試体が保管されています。水に浮いているのは軟弱な地盤などに使われる「超軽量コンクリート」。

講義ライブ90分

特別編

「大学から始める 『言葉の力』育成プログラム

「大学から始める『言葉の力』育成プログラム」は

学部・学科・年次を問わず参加できる課外プログラムです。全員が司会や書記役を体験するグループワークを通して

書く、聞く、話す、通じ合う
仲間とのグループワークを重ねて
「言葉で人とつながる技術」を磨く

論理的な日本語力を養い
日々の学びに生かす

福大生の人間的成长をトータルにサポートする「福大生ステップアッププログラム」(FSP)。「大学から始める『言葉の力』育成プログラム」はその一環として、2011年3月度からスタートしました。担当する元々は「プログラマ設置の背景を次のように説明します。」レポートで、学の授業では論理的な文章構成力と伝達力が求められます。これらはいわば大学での学びを深めるための基本ルールですが、以前はこうした論理的な「言葉の力」を体系的に学ぶ場が不足していました。

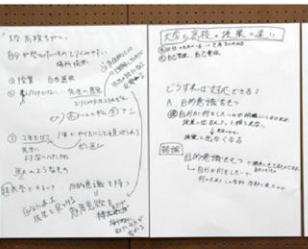
プログラムは基礎編6回、発展編3回、総集編1回。基礎編は1回で完結できるように設計されていて、学生は自分の関心に

応じていつでも、何度でも参加可能。学部生は年次の制限もありません。毎回視聴する
も知識も異なる初対面の仲間とのグルーブワークを通して論理的な日本語力を養
い、「コミュニケーション力」を培います。両球のルールを知らなければ、いくら練習
ても試合に勝てる力には結び付きにくく、けれど、ルールを知った上で練習すれば
練習した分だけ上達する。それと同じです。と、先生は「プログラムの意義」を語ります。

多彩な実践的アプローチを通して、言葉の力を「生きる力」に昇華

「記文」と「クイズ文」に例えて解説します。
「何かを食べて」「おいしかった」など、主觀的な感想をつづる記文でして、クイズ文は「[問い]【答え】[理由]」を含んだ客觀的な文章性のある文章。レポートに必要な論理構成が「本論」「結論」にも対応する形式です。グルーブワークは、テーマに関する自分の考えをクイズ文形式で組み立てて発表し、グルーブ全員で議論を深めていくスタイル。各自がプレゼンター・書記・司会役を順番で担当し、「伝える」「書く」「進行する」といった、言葉に対する多面的なプロセスを体感します。

教育開発支援機構
学生の学修支援を行い、主体的な学びの場を提供する。



グループワークで得た文章への気付きを
これからのレポート作成に役立てます。

人文学部教育・臨床心理学科 3年次生 河内 彩さん
以前、授業で私が書いたレポートを「感想文」と評価されたのですが、今回の受講により、自分の文章は日記文だったのだ理解できました。序論、本論、結論と順序立てて書く、論理的な文章の構造も納得できました。今取り掛かっている立論レポートにも、自信を持って取り組めそうです。

Students' voice



自分を表現する面白さを知り、人と
もっと話したいと思うようになりました。

人文学部文化学科3年次生 常松 功平さん

何度もあつという間に終了。先生が「大學は将来自分が進みたいレールを見極める駅だ」授業には自分の意見を持つて臨むべきなど、各グループの議論で印象に残ったフレーズをホワイトボードに書き出しし、「今日学んだことをぜひ日々の授業で生かしてください」と、プログラムを締めくくりました。「何より手応えを感じるのは思った以上に書けた話せた、自分を出した」という学生の声。書記役として講論の発展まことに貢献できたと喜ぶ学生が很多ります。言葉の力は新たな知識つながる力であると同時に、他者つながる力、いわば生きる力です。参加者に限らず福大生みんなに言葉を通じて「人つながる技術」を身に付けてほしいですね」プログラム終了後、いくつかのグループが同じメンバーで、後日行われる発展編プログラムへの参加を申し込み姿が見られました。先生の願いは確実に学生たちの胸に響いているようです。

「1パーソン、1サークル」。サークルに参加し充実した学生生活を送る。
そこでは若々しい情熱が燃え、仲間たちとの団い紳が結ばれている。



体育部会 庭球部

日々の練習の成果を披露する試合では、出場選手も他の部員も一丸となって勝ちにこだわり抜く庭球部。

情熱メッセージ



主将
矢野 雄祐さん
(経済学部経済学科4年次生)

選手層の厚さが福大庭球部の最大の魅力。女子も男子も一丸となって九州トップ、そして全国ベスト4を目指して、毎日全力を出しきって練習しています。応援よろしくお願いします。

団体戦の九州王座として君臨する福岡大学庭球部。主将の矢野さんは、「強さの秘密は、練習の質と量と断言します。練習が休みなのは月曜日のみ。夏季休暇中は、炎天下、朝から夕方までラケットを振り続けます。

「この部には突出したスター・プレーヤーはいません。しかし、トップレベルの選手が勢いいることで切磋琢磨し合える環境です」と矢野さんは語ります。

「昔ながらの体育系」という面も部の特長。1年次生はボール拾い、水ぐみ、2年次生は審判や後輩たちの教育など、年次による役割が明確に決まっています。1年次が一番きつい時期かもしれません。ハートな練習に加えて、上級生からの厳しい要求にも応えなければなりません。しかし、テニスは精神的な強さが必要なスポーツです。この厳しさを乗り越えることで磨かれる部分も大きいのです。私も4年次になってから、自分の当たりにしたOBや観客は決まって「これが福大の真骨頂」と感心するそ



4面のオムニコートで毎日汗を流す。所属部員は男女合わせて31人。

トップの誇りと勝利へのこだわり 受け継がれてきた伝統をより強固に



学術文化部会 メール ハーモニー部

本学の音楽系サークルが一同に会する「音楽の夕べ」では、「福岡大学校歌」「花は咲く」など4曲を披露。

情熱メッセージ



幹事
椎谷 尚史さん
(人文学部ドイツ語学科3年次生)

どの演奏会でも合唱する本校歌。歌うたびに愛着が深まり、特に1番の歌詞「人らしき人にあるべく」の時は福大生としての誇りさえ感じます。ぜひ皆さんも大きな声で歌ってください。

創部以来64年。当初はメール(Mail)などいう名称のとおり声楽合唱団でしたが、10年ほど前から女子部員も加わり、現在37人の部員は男女ほぼ半々。一部のモーツارتは「楽しむ」こと。音楽経験のない初心者も先輩から指導を受けて練習するうちに、歌う楽しさに目覚めます。私も初心者でしたが、今は楽しさを超えて歌に対する愛着さえ感じています」と椎谷さん。歌への思いは部員みんなに共通するようです。聴衆を前にしたステージで、徐々に全員の息が合ってくる。この高揚感は何度経験しても新鮮。「音楽の夕べ」でも、歌終えた部員全員の表情に最高の達成感が溢れています。今後は福祉施設での活動など、地域との結び付きを深めたいです。そんな言葉の端々に、歌う楽しさをもつと広げたい」という情熱が感じられました。



演奏会にはOBも駆け付ける。



2013年の夏季合宿は大分で2泊3日。



部室の天井には歴代の定期演奏会スターが。

声と心が美しく調和するとき 合唱に託した歌への思いが響き合う

毎週月・木・金曜日の午後6時、60周年記念館(ヘリオスプラザ)3階の分教室から、男女混声の美しいハーモニーが響き始めます。練習は毎回2時間。腹式呼吸による発声練習に続き、女子部員が担当するトップ、セカンド、男子が受け持つバリトン、ベースの4パートに分かれ、ひたすら課題曲を歌い込みます。

前期は6月末に行われる本学学術文化祭定期演奏会に向けた練習がメインになります」と幹事の椎谷さんは話します。

創部以来64年。当初はメール(Mail)など

いう名称のとおり声楽合唱団でしたが、10年

ほど前から女子部員も加わり、現在37人の部

員は男女ほぼ半々。一部のモーツارتは「楽し

む」こと。音楽経験のない初心者も先輩から

指導を受けて練習するうちに、歌う楽しさに

目覚めます。私も初心者でしたが、今は樂

しさを超えて歌に対する愛着さえ感じています

と椎谷さん。歌への思いは部員みんなに共通

するようです。聴衆を前にしたステージで、

徐々に全員の息が合ってくる。この高揚感は

何度経験しても新鮮。「音楽の夕べ」でも、歌

終えた部員全員の表情に最高の達成感が溢

れています。今後は福祉施設での活動など、

地域との結び付きを深めたいです。そんな

言葉の端々に、歌う楽しさをもつと広げたい

という情熱が感じられました。

年間行事
5月 ■ 九州学生春季テニス選手権大会
6月 ■ 九州地区大学体育大会
8月 ■ 全日本学生テニス選手権大会

9月 ■ 全日本大学対抗テニス王座決定試合
九州地区予選
■ 合宿
10月 ■ 全日本大学対抗テニス王座決定試合
2月 ■ 九州学生室内テニス選手権大会
3月 ■ 九州学生新進テニストーナメント

年間行事
4月 ■ 新入生勧誘週間(今年度は1年次16人が入部)
6月 ■ 新入生歓迎コンバ
■ 学術文化祭「音楽の夕べ」

8月 ■ 夏季合宿(今年度は佐賀・鹿児島へ)
11月 ■ 七隈祭
■ ホームカミングデー
12月 ■ 定期演奏会
3月 ■ さざなコンサート

鋭く深い観察眼と、
人を想う豊かな感受性。
2つの視点で、
歴史と誠実に向き合う。



歴史上の人物の事績より その人間性を先に語る

「黒田官兵衛は、雑食な人だったと思います」。福岡市博物館の一室、取材を始める前の時間。その場の雰囲気をほぐすためにNHKの大河ドラマの話題を持ち出した時、高山さんは、ぱりりとう言いました。官兵衛の事績でもなく、軍師としての虚実でもなく、まず「人間性」を語る歴史研究者。高山さんの個性がゆっくりと立ち上がりつつある気がしました。

福岡市博物館学芸員。その仕事は多岐にわたります。「例えば収蔵品の収集。寄贈・託付の依頼品、あるいは購入予定品を調査し、福岡市博物館の収集方針にかなえれば収蔵となります。新しい収蔵品の調査研究も重要な仕事です。また収蔵品の保存管理・修理も欠かせません」。一方で、企画展示の立案実施や、特別展示等の図録に載せる文章作成などの仕事も並行して行います。多忙中にも、「この仕事ならではの樂しみがあります。2007年に『国宝鑑真和上展』を開催したとき、日本最古の肖像彫刻で国宝の鑑真和上座像を間近で見ました。顔の無精ひげまではっきりと。あの感動と歓喜は忘れられません」。自分には本質的に歴史にミーハーな部分がある、と苦笑する高山さん。少年期のままの柔らかな感受性が、緻密な語り口に見え隠れします。その感受性が歴史上の人物の人間性を大切にする姿勢につながっているのかもしれません。そのことを伝えると高山さんは「福大の人間教育の影響もあるかな」と独り言のようにささやきました。

(次ページへ続く)



福岡市博物館学芸員
高山 英朗さん
[人文学部歴史学科 1998年卒業]

福岡市博物館の展示室で、「冷静に時代を俯瞰する知的な観察眼、その時代の人の中に飛び込んでいく熱い感受性。この2つが私の、歴史学への不变のスタンスです」と語る高山さん。

医師として臨床を重んじ、医師の倫理性を大切にした古代ギリシアの「医聖」。
その精神を現代に受け継ぐ、福岡大学のヒボクラテスを紹介します。

目と脳と指先で診る皮膚科 日々の臨床から、未来につながる研究へ

福岡大学病院 皮膚科診療部長 今福 信一 教授(医学部)



特に乾癬患者の方は人によつて症状の程度や発症する箇所が異なるので細かく話を聞いて、入念に診察することが重要」と今福先生。1日に30人以上の患者さんの診療に当たることも少なくないといふ。

世界に飛び出して直に触れた 十人十色の研究・臨床スタイル

福岡大学病院の皮膚科を診療部長としてリードする今福先生は、祖父の代から続く皮膚科の家に生まれました。そして祖父や父に導かれるように九州大学医学部へ。貴重な学生時代だからと医学部のバドミントン部に入部し、スポーツにも汗を流しました。部では同じ道を志す先輩や後輩とのつながりができ、それは今でも財産となっています。専門課程が始まる3年生以降は覚えることが山ほどあり、特にテストの前は不眠不休で勉強していました。医学生時代の学びについて振り返ります。この時期に、論文作成・読解には英語が必須であり、また患者さんとの対話には豊かな表現力や知識が問われることを知つて、一般教養の多くが医師としての将来につながることを実感しました。学ぶことは全く役立つと気付いて以来、より一層前向きに勉強に取り組むことができたそうです。

星々を見て気付きを得る それが今福流「医療の天文学」

リカのメリーランド大学に3年間留学。研究室ではヘルペスウイルスを主なテーマに基礎研究に没頭しました。「研究室には、皮膚科学を極めたい優秀な若手が多く集まっています。文献を読むスピード、理解の深さ、経験値プレゼンテーションでの説得力など、さまざまな面で高レベルの人たちにもまれた3年間でした」。

卒業後、研修医として1年半働いた後、アメリカのメリーランド大学に3年間留学。研究室ではヘルペスウイルスを主なテーマに基礎研究に没頭しました。「研究室には、皮膚科学を極めたい優秀な若手が多く集まっています。文献を読むスピード、理解の深さ、経験値プレゼンテーションでの説得力など、さまざまな面で高レベルの人たちにもまれた3年間でした」。

29歳で帰国し、研究者から一転、毎日外来の診察に明け暮れる臨床医に。「水虫からメラノーマ(皮膚のがん)まで、皮膚の疾患はとにかく診るというのが私のモットーでした」。そして「乾癬」。慢性的に赤い癰疹からフケのような皮膚学教室のボスが教えてくれた今でも覚えている言葉は「Stay Calm」。「医者はいつも落ち込んでいるというイメージですが、これは臨床においてとても大事だと今分かります」。



1 皮膚科医に必須の要素は「経験値と観察力」と今福先生 2 医学部5年生のベッドサイド実習期間中には決まって皮膚科学の基礎知識をテストする 3 症状が重い乾癬患者さんの治療前と治療後。治療の成果が見て取れる

院に籍を置くタイミングが来ました。数多くの臨床を経た後に、この両輪で走る大学病院で、まず先生が注目したのは「乾癬」。慢性的に赤い癰疹からフケのような皮膚をきっかけで、皮膚科医としての人生が動き出しました。最初は、皮膚科の基礎知識を教科書にまとめるところから始めました。その後、皮膚科の専門的な知識を深めながら、臨床経験を積んでいきました。特に乾癬の治療法や予防法について、多くの論文を読み、実践的な治療法を確立していったのです。

その後、皮膚科の専門性を深めながら、

「大学病院には、診療所やクリニックとは違う疾患の患者さんが数多く訪れます。乾癬の患者さんが多いのも大学病院ならでは。私が入局する前の記録も含め、約7000人のカルテに目を通し、いわば擬似診察を行いました」。やはり思うような研究成果も出せませんでした」と振り返ります。しかし、若い時に「自分、語学力は飛躍的に向上し、日本においては知り得なかつたかもしれない研究アプローチの仕方や、いろいろな民族の考え方や生き方に触れることができました。大多数がアメリカ人の中、日本から来た若い研究者は何かとかわいがつてもらえたそうです。臨床に関しては、あまり先入観を持たずに、さまざま人のスタイルを素直に吸収できた貴重な機会だったと言います。また海外では80代の研究者に会うことも珍しくありませんでした。Never too old to learn、年齢を気にせず、パワフルに学び続ける大切さを教わりました。

研究と臨床、共に経験豊かな今福先生ではの研究スタイルを、自身では「星を見て物理を考えるような方法だ」と評します。顕微鏡の中の原子や分子を観察し、仮説を立てるのは研究ですが、空に星が見えているならそこから気付きを得るアプローチもあっていい。病気というのは、自然の営みなのです。夏になれば水虫が増え、食生活や環境が乾癬の引き金にもなる。非常に明快です。私は自然を観察し、そこから疾患の背景や原因を探っていく帰納的なアプローチで研究を進めています」。

先生の臨床に重きを置いた研究スタイルは、厚生労働者の目にも留まり、帯状疱疹後の神経痛にスポットを当てた研究プロジェクトのリーダーに任命されるなど高い評価を得ています。「皮膚は、体の外側に出た臓器とも言われ、耳の中や目の奥、内臓と違い、直接見て、触れることができます。私たち皮膚科医は、目と脳と指先を使って、診ることはできるのです」。

今後の夢は、研究室ではなく診察室から皮膚科学を考ぶ、医学部の講義から導入された皮膚病の知識を教科書にまとめるところです。自分の當みに寄り添い、薬を使わずに治療できるような研究結果を出し、多くの患者さんの笑顔につなげていまとい今福先生は抱負を語ります。

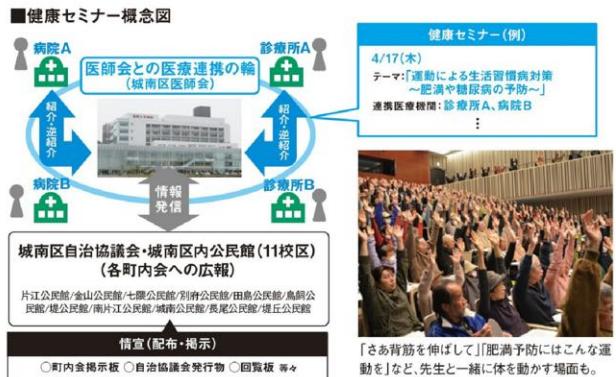
TOPICS...

健康セミナーリポート タイムリーな医療情報を楽しく 時間設定や会場の演出も好評

7月24日(木)、健康セミナー第12回「夏バテや熱中症の予防について」が開催されました。総合司会の志村先生、中島先生のあいさつに続いて、3人の先生方が次々に演壇に立ち、質疑応答タイムには会場からたくさん手が上がりました。スクリーンが大きくて見やすいです。セミナーは家族の入院先の告知で知りました。「テーマ設定がタイミング」「参加しやすい時間帯でうれしい」「楽しめた」「広報誌で知り、参加した」「スタンプカードを集めたい」と好評でした。



セミナー終了後、すぐ帰らざる様に次回のセミナー案内や関連資料を受け取る参加者。



■学んで予防!『福大病院 健康セミナー』開催予定一覧

第15回 10/22(水)	テー マ 【お口の中のケア・歯周病の予防~おいしく食べて病気を予防~】	総合司会 福岡大学病院 歯科口腔外科 部長 喜久田利弘	講演者 福岡大学病院 歯科口腔外科 助教 大谷泰志 堀屋歯科 医長 梶原慎一 医療法人フランエボー 江川歯科医院 院長 江川光治
第16回 11/20(木)	テー マ 【胃や腸の病気の予防と治療】	総合司会 福岡大学病院 消化器内科 部長 向坂彰太郎	講演者 福岡大学病院 消化器内科 診療教授 青柳邦彦 かわもと胃腸内科クリニック 院長 川元健二 笠井外科胃腸科医院 副院長 笠健児朗
第17回 12/18(木)	テー マ 【認知症の予防と治療】	総合司会 福岡大学病院 神経内科 部長 坪井義夫	講演者 福岡大学病院 神経内科 助教 合馬慎二、他



セミナー会場は福岡大学病院新館に隣接する「福大メディカルホール」。市民の方々が自由に参加できる「健康セミナー」は2階席まで埋まる盛況ぶり。
画面の内容を印刷した資料が配布されるので帰宅後に振り返ることもできる。

地域医療連携センター長(福岡大学病院副病院長)
中島 衡 教授
地域医療連携センター長(福岡大学病院副病院長)
志村 英生 教授

「一般の人間が聞きたいテーマ」
を基本に展開する健康セミナー

健康セミナーの開催に当たっては、「参加者のニーズに応える」とを基本に、地域住民へのアンケート結果をもとに「年分(12回)のテーマを選定しました。「認知症・生活習慣病などを希望の多いテーマを中心にして、インフルエンザといった季節性の高いテーマを盛り込みました。セミナー開始後も毎回アンケートを取り、ニーズを把握して次のテーマ選定に生かしています」と、志村先生。参加者が

「一般的の人間が聞きたいテーマ」
を基本に展開する健康セミナー

健康セミナーの開催に当たっては、「参加者のニーズに応える」とを基本に、地域住民へのアンケート結果をもとに「年分(12回)のテーマを選定しました。「認知症・生活習慣病などを希望の多いテーマを中心にして、インフルエンザといった季節性の高いテーマを盛り込みました。セミナー開始後も毎回アンケートを取り、ニーズを把握して次のテーマ選定に生かしています」と、志村先生。参加者が

セミナーの回数を重ねることで地域連携の深まりを実感

この2つのセミナーを地域医療連携センターと共に企画しているのが医療情報部です。部長を務める志村先生は「2011年から行っている「メディカルセミナー」はすでに15回開催。福大病院と地域をつなぐ場として定着しています」と話します。さらには「付け加えました。」「メディカルセミナーは福岡市医師会との共催。健康セミナーもテーマ設定から演者の選定、開催日の告知に至るまで、福大病院が位置する福岡市城南区の医師会、役員所、保健所など、行政や地域の自治会の全面的な協力を得て運営しています。この種のイベントは一方通行の情報提供になりがちですが、両セミナーとも、回を重ねるごとに地域連携の深まりを実感しています」。

本位の姿勢はセミナーの時間設定にも顕著に表れています。「参加者の多くが60代以上の高齢者であることから、昼食を終えて一息ついた午後2時半から4時までの1時間半に設定。冬季でも明るいうちにお帰りいただける時間です。また地域の開業医の先生にも演者をお願いしている関係で、午後休診のケースが多い木曜日を開催日としています。」



そうした取り組みの一環です。

「福岡大学病院メディカルセンター」は医療関係者向けに年4~6回実施している学術講演会。具体的には、福大病院の診療各科の活動や研究成果を伝えています。こうした最新の医療情報の共有に加え、医療関係者間の相互コミュニケーションを深める効果も大きいようです。センターの中島先生は「福大病院の医師と地域の開業医、また開業医同士が顔を合わせる機会がないのが実情。しかしこういったセミナーを通じて、互いの顔が見える関係になることで医療関係者同士の一体感が深まり、当センターが行っている患者さんの紹介や逆紹介も今まで以上に円滑に進んでいます」と成果を強調します。一方、市民公開講座「学んで予防!福大病院健康セミナー」は、

**地域との連携強化を目指し
2つのセミナーを定期的に開催**
地域関係者や住民の皆さんに

「一般的の人間が聞きたいテーマ」
を基本に展開する健康セミナー

健康セミナーの開催に当たっては、「参加者のニーズに応える」とを基本に、地域住民へのアンケート結果をもとに「年分(12回)のテーマを選定しました。「認知症・生活習慣病などを希望の多いテーマを中心にして、インフルエンザといった季節性の高いテーマを盛り込みました。セミナー開始後も毎回アンケートを取り、ニーズを把握して次のテーマ選定に生かしています」と、志村先生。参加者が

本位の姿勢はセミナーの時間設定にも顕著に表れています。「参加者の多くが60代以上の高齢者であることから、昼食を終えて一息ついた午後2時半から4時までの1時間半に設定。冬季でも明るいうちにお帰りいただける時間です。また地域の開業医の先生にも演者をお願いしている関係で、午後休診のケースが多い木曜日を開催日としています。」

本位の姿勢はセミナーの時間設定にも顕著に表れています。「参加者の多くが60代以上の高齢者であることから、昼食を終えて一息ついた午後2時半から4時までの1時間半に設定。冬季でも明るいうちにお帰りいただける時間です。また地域の開業医の先生にも演者をお願いしている関係で、午後休診のケースが多い木曜日を開催日としています。」

本位の姿勢はセミナーの時間設定にも顕著に表れています。「参加者の多くが60代以上の高齢者であることから、昼食を終えて一息ついた午後2時半から4時までの1時間半に設定。冬季でも明るいうちにお帰りいただける時間です。また地域の開業医の先生にも演者をお願いしている関係で、午後休診のケースが多い木曜日を開催日としています。」

参加された方に、生の声をお聞きしました。

オープンキャンパスの印象や福岡大学について感じたことを自由に語っていただきました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

高校生の皆さん

- 初めて福大にきました。広さに驚きました。経済学部に関心があります。大学生の先輩から、今勉強している内容などを聞けて、興味が湧きました。
- 広くてきれいで驚きました。相談コーナーで大学卒業後の先輩方の進路について尋ねました。金融業界へ進んだ先輩も多いようで、憧れを持ちました。ここなら将来的なことを見据えてもいい学びがありそうです。
- 薬学部を志望しており、10時の説明会から参加。去年に続き今年もオープンキャンパスにきました。過去問をもらったり、相談コーナーを訪れたり、入試の対策なども聞けるのでモチベーションが上がります。卒業後の先輩方の進路も聞けて、自分の数年後をイメージすることができました。
- スポーツ科学部を志望しています。サッカー部を見学しましたが、プレーヤーを応援する周囲の一体感が良かった。設備が整っているところも魅力です。

保護者の方々

- 学生スタッフの方に質問したら分かりやすく勉強の仕方や大学生活について教えてくれました。実験設備なども整っていますし、卒業までのサポート体制も手厚いですね。学生さんも先生も熱心で、娘も良い刺激を受けて意欲が高まったようです。
- 鹿児島から、前日に福岡に来ました。他大学のオープンキャンパスにも行きましたが、ここは、親子で来ている人が多いですね。親御さんが真剣に考えていることの表れではないでしょうか。
- 息子は将来、理系への進学を希望しています。オープンキャンパスの授業を見て、今学んでいる「数II」と関連していることが多いのでちゃんと勉強しようと思い直したようです。大学に通いながら社会勉強をしてほしいと思っています。



▲「リニアモーターの原理」を学ぶ参加者。(工学部電気工学科)



▲受付では、資料が入ったオリジナルバッグを配布。
▲器具を使用しトレーニングを実践。(スポーツ科学部)



▲広いキャンパス内では、学生スタッフが参加者を案内。
▶入学試験の過去問題集を無料配布しているコーナーには、たくさんの人が集まる。



▲個別相談コーナーには保護者同伴の参加者が多く見受けられた。



▲九州六大学の覇者、本学野球部の練習を食い入るように見る参加者たち。



▲10時の開始時間前から、高校生や保護者が次々と来学。



▲「Language Plaza」でネイティブの教員と外国語の日常会話を楽しむ。



▲友人と情報交換しながら食事を楽しむ参加者たち。



▲高強度コンクリートの破壊試験を見学。(工学部建築学科)



▲精巧な人体模型を使っての診療体験。(医学部医学科)



▲満席となった模擬講義は、本番の授業ながらの臨場感。(法学部)



▲受付周辺のさまざまな展示物や資料に目を凝らし、期待を膨らませる参加者。

**福岡大学を「知る」「見る」「体験する」
10,158人が来学。**

8月9日土「オープンキャンパス開催

8月9日(土)、「オープンキャンパス2014」を開催しました。当日は台風直撃も予想されましたが、ひどい風雨もなく、10,158人の参加者を迎えることができました。受付開始前から列ができたほど盛況ぶりで、おそらくボロシャツを着た、学生スタッフと教職員が笑顔でキャンパス内をナビゲート。模擬講義や公開実験施設見学のほか、教職員や学生スタッフによる個別相談を実施しました。参加者は来春以降の自分たちのキャンバースライフをイメージしながら学内を見学。帰る頃には参加者は皆「入学したい」という気持ちが高まつた」と睡を輝かせていました。



パフォーマンスの比率は17%
前の女性発言者の比率は35%

ななくま通信

東日本災害ボランティア「第4次福岡大学派遣隊」を派遣

本学は、平成23年から東日本大震災の被災地でボランティア活動を行う東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」を組織し、これまで延べ248人の学生および教職員を派遣してきました。今年度も、第4次として、「福岡大学派遣隊」を組織し、8月19日(火)に被災地へ派遣しました。今回派遣したのは、学生32人および教職員4人の合計36人。5月26日(月)以降、第1次から第3次の派遣隊に参加した学生や教職員による講話などの事前研修とグループワークを重ねるなど、災害ボランティアに必要な準備を行っての派遣でした。

活動期間は8月19日(火)～23日(土)の5日間。宮城県(気仙沼市、南三陸町)、岩手県(陸前高田市)でがれき撤去、清掃、仮設住宅訪問などを行いました。また、8月23日(土)には、現地の東北学院大学と尚絅学院大学の学生と交流し、ボランティアについての意見交換などを行いました。

「第4次福岡大学派遣隊」のリーダーを務めた神崎暢久さん(経済学部経済学科2年次生)は「仮設住宅を訪問した際、現地の方から津波の被害を受けた当時の話を聞きました。普段は何気なく普通の生活を送っているように見えても、心に受けた傷は今でも被災者の方々に深く残っていると感じ、涙が止まりませんでした。私の場合、派遣隊に参加するより以前に個人で東北へ2度ボランティアに行きましたが、今まで一人で自己完結していたように思います。実際に同じ世代の仲間と一緒に活動したこと、同世代など「人に伝える」ということもボランティアなのだと実感しました。今後の課題は、現地の方のニーズをどう拾って、それをどう広めていくか、自分たちにできることは何かを考え実行していくことです」と語ってくれました。

今後、学生がボランティア活動で感じたことや受け止めた思いについて発表する活動報告会が行われる予定です。



結団式で決意表明をする派遣隊学生リーダーの
神崎暢久さん



震災から4年、「風化させない」思いを胸に黙とう



上山八幡宮の裏手での清掃活動



志津川漁港で出荷前のカキの洗浄作業



仮設住宅訪問でお年寄りと触れ合う



学童支援のため、気仙沼市の小学校へ



がれきの中から被災された方々の思い出の品を掘り出す



東北学院大学と尚絅学院大学の学生と意見を交わす
学生たち



学生32人、教職員4人の合計36人が活動

ななくま通信

福岡大学が『人事が選ぶ大学ランキング』(日経HR)で「対人力量」全国1位

就職・転職支援の日経HRが企業の人事担当者を対象に、新卒社員の出身大学のイメージ調査(上場企業3,540社を対象、有効回答社数433社)を実施しました。調査は、「対人力量」「知力・学力」「独創性」「行動派」「専門性・仕事力」の5項目にまとめられ、平成26年6月16日付け日本経済新聞朝刊に結果が掲載されました。

ランキングによると、本学は「対人力量」の項目で全国1位。詳細調査項目の「コミュニケーション能力が高い」も全国1位で、他に「ストレス耐性がある」「課外活動に積極的に取り組んでいる」についても高い評価でした。

また、「就職支援に熱心に取り組んでいる」ランキングでは、全国4位でした。

企業の人事担当者が選ぶ大学合宿ランキング				
順位	大学名	総合得点	組合得点	個別得点
1	京都大学	160.1	160.1	160.1
2	神戸大学	158.7	158.7	158.7
3	大阪市立大学	157.2	157.2	157.2
4	筑波大学	154.9	154.9	154.9
5	一橋大学	154.6	154.6	154.6
6	鹿児島大学	153.3	153.3	153.3
7	早稲田大学	151.3	151.3	151.3
8	慶應義塾大学	148.5	148.5	148.5
9	九州大学	148.2	148.2	148.2
10	名古屋大学	148.0	148.0	148.0
11	東京工業大学	147.4	147.4	147.4
12	大阪府立大学	147.1	147.1	147.1
13	関西学院大学	145.8	145.8	145.8
14	東洋大学	145.4	145.4	145.4
15	明治大学	145.1	145.1	145.1
16	共立女子大学	141.1	141.1	141.1
17	同志社大学	140.6	140.6	140.6
18	法政大学	140.3	140.3	140.3
19	東邦大学	139.9	139.9	139.9
20	国士館大学	138.7	138.7	138.7

行動派				
順位	大学名	総合得点	個別得点	個別得点
1	国際基督教大学	65.3	72.7	36.4
2	東洋大学	62.7	72.7	36.4
3	東邦大学	62.0	72.7	36.4
4	神奈川大	61.4	60.5	27.6
5	国士館大学	61.2	67.0	30.9
6	鹿児島大学	61.2	59.8	17.6

対人力量				
順位	大学名	側面得点	コミュニケーション能力が高い	ストレス耐性がある
1	福岡大学	55.6	75.0	50.0
2	近畿大学	44.0	61.7	38.3
3	東京都市大学	40.5	57.1	35.7
4	愛知学院大学	39.4	72.7	18.2
4	国士館大学	39.4	54.5	45.5
6	東北学院大学	39.4	72.7	9.1

対人力量				
順位	大学名	側面得点	コミュニケーション能力が高い	ストレス耐性がある
1	福岡大学	55.6	75.0	50.0
2	近畿大学	44.0	61.7	38.3
3	東京都市大学	40.5	57.1	35.7
4	愛知学院大学	39.4	72.7	18.2
4	国士館大学	39.4	54.5	45.5
6	東北学院大学	39.4	72.7	9.1

知力・学力				
順位	大学名	側面得点	知識がある	問題解決能力がある
1	一橋大学	64.3	78.6	59.6
2	明治大学	64.0	61.7	38.3
3	東京都市大学	60.5	57.1	35.7
4	東洋大学	59.4	72.7	18.2
4	国士館大学	59.4	54.5	45.5
5	東北学院大学	59.4	72.7	9.1

独創性				
順位	大学名	側面得点	独創性がある	創造力がある
1	金沢工業大学	42.9	57.1	38.6
2	東邦大学	40.2	47.8	32.6
3	東京都市大学	39.9	57.1	31.4
4	国士館大学	36.7	40.0	33.3
5	工学院大学	36.1	44.4	27.6

専門性・仕事力				
順位	大学名	側面得点	専門性・仕事力	問題解決能力がある
1	東工大	22.7	4.5	13.6
2	上智大学	21.7	47.8	8.7
3	東大	20.3	9.1	0
4	名大	19.6	17.6	5.9
5	群大	19.4	16.7	8.9
5	電通大	19.4	8.3	41.7

平成26年6月16日 日本経済新聞(朝刊)掲載



地方の国立健闘

徳島大6位・九大9位

人事が選ぶ大学ランキング

「対人力量」の項目は、東北大学が1位、東京大学が2位、東洋大学が3位、明治大学が4位、一橋大学が5位、国士館大学が6位、鹿児島大学が7位、東京都市大学が8位、愛知学院大学が9位、中京大学が10位でした。

「知力・学力」の項目は、金沢工業大学が1位、明治大学が2位、東洋大学が3位、東京都市大学が4位、東京工業大学が5位でした。

「独創性」の項目は、金沢工業大学が1位、東邦大学が2位、東京都市大学が3位、国士館大学が4位、工学院大学が5位でした。

「専門性・仕事力」の項目は、東工大が1位、上智大学が2位、東大が3位、名大が4位、群大が5位でした。

「問題解決能力」の項目は、電通大が1位、東工大が2位、上智大学が3位、東大が4位、群大が5位でした。

「就職支援に熱心に取り組んでいる」の項目は、金沢工業大学が1位、金沢大学が2位、東洋大学が3位、東京都市大学が4位、東京工業大学が5位でした。

「就職支援に熱心に取り組んでいた」の項目は、金沢工業大学が1位、金沢大学が2位、東洋大学が3位、東京都市大学が4位、東京工業大学が5位でした。

「就職支援に熱心に取り組んでいた」の項目は、金沢工業大学が1位、金沢大学が2位、東洋大学が3位、東京都市大学が4位、東京工業大学が5位でした。

33 October 2014

ななくま通信

ななくま通信

▶ 平成26年度「花嶋環境基金」の奨学金を3人に交付



受賞者の皆さんと荒牧工学部長(後列中央右)

6月18日(水)、工学部長室で「花嶋環境基金」の奨学金交付式が行われ、荒牧重登工学部長から、松嶋文哉さん(工学部社会デザイン工学科4年次生)、佐々木赳斗さん(工学部社会デザイン工学科4年次生)、石橋法子さん(工学研究科資源循環・環境工学専攻修士課程1年次生)の3人に対して、奨学金(30万円)が交付されました。

本奨学金は、花嶋正孝名誉教授(工学部土木工学科、現社会デザイン工学科)の在職中の研究資金などを基に設立された「花嶋環境基金」から、環境保全技術の向上および発展に寄与する優秀な人材を育成するために交付されるものです。

奨学生の皆さんのさらなる勉励に期待します。

▶ 学園祭(七隈祭・雅祭・医学祭)の季節到来(11/1~11/3)

西日本最大級の規模を誇る「第59回七隈祭」が11月1日(土)~3日(月・祝)に七隈キャンパスで開催されます。

今年の七隈祭のテーマは「Unity」。「Unity」には、団結、結束という意味があります。七隈祭実行委員会は、団結することの大切さを再確認し、七隈祭に参加する全ての人が結束することで、盛大で活気のある七隈祭となるよう日夜準備を進めています。

七隈祭実行委員会を中心に、約130店舗の模擬店のほか、「ART



笑顔で模擬店の呼び込みを行う学生たち



交響楽団によるコンサートの様子



屋外ステージでも笑顔がはじける

※写真は昨年の様子

▶ 本学卒業生の七戸龍選手が「世界柔道選手権大会」メダル獲得の凱旋報告

ロシア・チェリャビンスクで開催された「世界柔道選手権大会」で、七戸龍選手(スポーツ科学部2010年度卒業)が個人戦で銀メダル、団体戦で金メダルを獲得しました。8月30日(土)に行われた男子100キロ超級の個人戦決勝で七戸選手は、2012年ロンドン五輪金メダリストのリネール選手(フランス代表)に敗れるも善戦し、世界にその強さを証明しました。同31日(日)に行われた団体戦では、開催国ロシアとの決勝に大将として出場。勝敗を決める一戦に抑え込みで見事勝利し、同大会で日本男子初の金メダル獲得に大きく貢献しました。

9月17日(水)には、七戸選手がメダルを手に本学を訪れ、60周年記念館で多くの学生・教職員を前に凱旋報告を行いました。今後、リオデジャネイロオリンピックに向けて、七戸選手のさらなる活躍に期待がかかります。



凱旋報告会では多くの学生が質問を投げ掛けた



「世界柔道選手権大会」での活躍を衛藤学長に報告する七戸選手

▶ 平成26年度 父母懇談会を本学と全国6会場で開催

6月21日(土)と22日(日)の2日間、本学七隈キャンパスで平成26年度父母懇談会を開催し、延べ2,804人のご父母が出席されました。

この父母懇談会は、教育・研究・医療や社会貢献など本学の現状をご父母の皆さんにご報告し理解を深めていただくとともに、ご子女の学修、生活、就職・進路等について親しく懇談することを主な目的としています。

人文学部・法学部・経済学部・理学部・工学部はA棟・商学部および商学部第二部は2号館を使用。医学部看護学科・薬学部・スポーツ科学部では施設・設備などの見学も兼ね各学部の建物内で開催。学長のあいさつ、学部長や教授陣による説明をはじめ、個別相談では、学業成績および科目履修状況、授業の出席状況や就職・進路支援状況についての

報告・相談を実施しました。また、今年度は3・4年次生の保護者の方々を対象に、東洋経済HRオンライン編集長の田宮寛之氏が「保護者に知っていただきたい現在の就職活動と採用動向」と題し、講演を行いました。

父母懇談会は、6月に大阪・山口・長崎・大分、7月に那覇・鹿児島の計6会場でも開催し、延べ622人のご父母が出席されました。各会場では本学同様の説明会や個別相談のほか、本学同窓会「有信会」の地域支部の代表から、卒業生の活躍や地元の就職状況についての説明も行われました。

各会場でお願いしたアンケートでは、本学および父母懇談会に対する多数のご意見ご要望をいただきました。主なものは、次のとおりです。

■大学内の様子を見ることができ、子どもがどのような環境の中で学生生活を過ごしているのか、感じることができて、良い機会だった。

■漠然と感じていたことを、いろいろなお立場から具体的な話を聞くことができて、よく分かりました。子どもともよく話をして、充実した学生生活を送ることができるよう、また就活もうまくいくようサポートできればとあらためて思いました。

■とても参考になりました。特に学習時間の大切さです。就職も自己管理が大切だという事が分かりました。積極的にしなければなりませんね。

■個別相談では親切・丁寧に説明いただき、子どもの大学生活の様子がよく分かり、子どもへの対応の仕方や子どもと話をする機会を得たいと思いました。



2号館での商学部説明会の様子。衛藤学長のあいさつもあり、熱心に聞き入るご父母の皆さんで会場は熱気を帯びていた



学部・学科ごとの個別相談ではご父母からの相談に親身に対応



セミナー「保護者に知っていただきたい、現在の就職活動と採用動向」を実施

○ 福岡大学への寄付者ご芳名一覧

- 158,536,965円 福岡大学父母後援会 様
- 51,334,637円 福岡大学附属大濠高等学校第61回卒業生 様
- 16,000,000円 福岡大学附属若葉高等学校後援会 様
- 8,196,822円 福岡大学附属大濠中学校保護者会 様
- 2,000,000円 野口 佳李 様
- 1,274,844円 環境生態制御専修 代表 田中 紗子 様
- 1,081,155円 工学部教授 松藤 康司 様
- 1,000,000円 田中藍株式会社 代表取締役社長 田中 達也 様
- 563,980円 福岡大学附属大濠高等学校第61回卒業生 様
- 365,780円 匿名 様
- 200,000円 株式会社 そうりん 代表取締役 藤井 富生 様
- 100,000円 故 高田 文男 様(ご遺族様)
- 50,000円 横崎 東 様
- 10,000円 卒業生名簿権及びホールクロック 平成25年度福岡大学附属大濠中学校 卒業生一同 様
- 重松商事株式会社 代表取締役 重松 通洋 様
- フレームテント 2台 第37回福岡大学医学部医学科謝恩会 実行委員会 様
- プロジェクター・スクリーン一式、大型液晶テレビ・ブルーレイレコーダー 平成25年度福岡大学附属若葉高等学校 卒業生(331名)一同 様
- 医療法人 才全会 西新クリニック 理事長 松鷺 哲哉 様

平成25年度 学校法人福岡大学収支決算

■貸借対照表 (決算規模2,329億円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	206,936,054	205,522,706	1,413,348
有形固定資産	126,881,184	130,096,169	△ 3,214,985
土地	20,266,869	20,266,869	0
建物	72,024,635	75,863,861	△ 3,839,226
構築物	4,576,449	4,304,435	272,014
教育研究用機器備品	13,531,455	13,618,643	△ 87,188
その他の機器備品	244,789	261,100	△ 16,311
図書	15,742,167	15,509,820	232,347
車両	15,903	5,716	10,187
建設仮勘定	478,917	265,725	213,192
その他の固定資産	80,054,870	75,426,537	4,628,333
教育研究用機器備品	217,648	223,475	△ 5,827
収益事業元入金	805,540	794,648	10,892
貸付金	166,256	232,825	△ 66,569
貸与受取料	3,766,378	4,115,454	△ 349,076
差入保証金	50,914	49,775	1,139
引当特定資産	75,048,134	70,010,360	5,037,774
流動資産	25,945,301	28,952,232	△ 3,006,931
現金預入金	17,695,348	20,540,363	△ 2,845,015
未収入金	7,499,139	7,745,008	△ 245,869
材 料	133,996	91,837	42,159
貯蔵品	14,031	12,797	1,234
立替金	4,185	3,403	782
前払金	573,562	545,532	28,030
仮払金	25,040	13,292	11,748
資産の部合計	232,881,355	234,474,938	△ 1,593,583

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	27,681,730	27,990,027	△ 308,297
長期借入金	8,826,930	9,360,200	△ 533,270
長期未払金	609,085	481,280	127,805
退職給付引当金	18,245,715	18,148,547	97,168
長期負債	12,677,413	14,401,143	△ 1,723,730
短期借入金	533,270	288,880	244,390
短期未払金	5,401,281	7,209,478	△ 1,808,197
前受料	5,565,751	5,652,256	△ 95,505
預り金	1,185,913	1,248,753	△ 62,840
仮受料	198	1,776	1,578
負債の部合計	40,359,143	42,391,170	△ 2,032,027

基本資金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本資金	184,337,771	183,221,480	1,116,291
第2号基本資金	15,734,598	16,442,605	△ 708,007
第3号基本資金	2,353,879	2,353,879	0
第4号(運転資金)	4,930,000	4,799,000	131,000
基本資金の部合計	207,356,248	206,816,964	539,284

資産から負債と基本資金を差し引いた結果の超過(緊急時用)額			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年維持費支出超過額	14,834,036	14,733,196	100,840
消費収支差額の部合計	△ 14,834,036	△ 14,733,196	△ 100,840

資産から負債と基本資金を差し引いた結果の超過(緊急時用)額			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部合計	232,881,355	234,474,938	△ 1,593,583

平成25年度に取得した主な施設・設備

施設関係(土地・建物・構築物・建設仮勘定)

- ①文系センター棟3階マン室用空調設備取替工事
- ②第二記念会堂1階西側トイレ改修工事
- ③福岡大学野球場管理棟
- ④やまとが丘改修工事
- ⑤文系センター棟西側エレベーター取替工事

設備関係(機械器具)

- ①ナノ分子集中精算系の解析システム
- ②低速乱流可視化風洞装置
- ③水生・生態系教育装置
- ④高精度ナノスケールデバイス作製装置
- ⑤学生教育・生活支援システムハードウェア
- ⑥デジタルガムカメラ装置(福岡大学病院)
- ⑦第三期医療情報システム(筑紫病院)
- ⑧東芝スキャナ装置(福岡大学病院)
- ⑨バイブルーンアンゴ装置(筑紫病院)
- ⑩超電導磁気共鳴装置(福岡大学病院)
- ⑪バーサパルスセレクト(筑紫病院)

※本公司公式ウェブサイトの情報公表・財務状況 (<http://www.fukuoka-u.ac.jp/disclosure/finance/>) では、詳細な決算情報を公開していますのでご覧ください。

①消費収支においては、25億円の消費支出超過になりました。

②基本金組入額を29億円計上しました。

平成25年度 消費収支計算書 (決算規模726億円)

(単位:千円)

収入の3本柱			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生活等納付金	26,294,010	26,398,919	△ 104,909
手 数 料	1,251,520	1,458,153	△ 206,633
寄 付 金	1,184,380	1,342,428	△ 158,048
補 助 金	5,601,660	5,544,582	57,078
資 産 運 用 収 入	506,180	870,113	△ 363,933
事 業 収 入	958,840	999,936	△ 41,096
医 療 収 入	34,860,900	34,571,866	289,034
雇 用 収 入	1,280,110	1,445,963	△ 165,853
医 療 収 入 合 計	71,937,600	72,631,960	△ 694,360
基本金組入額合計	△ 5,202,210	△ 2,905,630	△ 2,296,580
消費収入の部合計	△ 66,735,390	△ 69,726,330	△ 2,950,940

消費収支の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
教職員に支払われる給与等のことです。収入(雇用収入)の61.5%に相当します。	38,246,260	37,388,749	△ 857,511
教育研究経費	29,523,080	29,627,682	△ 104,602
(減価償却額)	16,401,190	(6,390,969)	(10,221)
管理経費	3,240,820	3,081,663	△ 159,157
(減価償却額)	(466,910)	(457,942)	(8,966)
借入金等 利 息	219,740	210,432	9,308
資産差分額	2,543,460	1,841,899	701,561
徴 収 不 能 額	0	3,921	△ 3,921
徴 収 不 能 引 当 金 総 額	0	39,170	△ 39,170
(437,220)	0	0	0
[予 備 費]	0	0	0
消費支出の部合計	73,773,360	72,193,516	△ 1,579,844

(注)〔予備費〕は未使用額を表し、()内の額は使用額を示す。

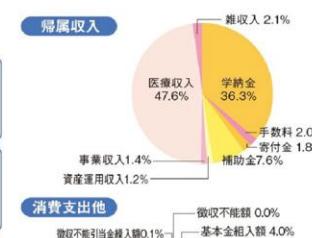
平成25年度 資金収支計算書 (決算規模1,186億円)

(単位:千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生活等納付金	26,294,010	26,398,919	△ 104,909
手 数 料 収 入	1,251,520	1,458,153	△ 206,633
寄 付 金 収 入	1,184,380	1,218,718	△ 34,338
補 助 金 収 入	5,601,660	5,544,582	57,078
資 産 運 用 収 入	506,180	870,113	△ 363,933
資 産 売 却 収 入	0	7,888,572	△ 7,888,572
事 業 収 入	958,840	999,936	△ 41,096
医 療 収 入	34,860,900	34,571,866	289,034
雇 用 収 入	1,280,110	1,441,901	△ 161,791
前 受 金 収 入	5,442,040	5,556,751	△ 114,711
そ の 他 の 収 入	23,416,920	24,920,881	△ 1,503,961
資金収支調整勘定	△ 12,251,900	△ 12,764,155	△ 512,255
前年度維持支援資金	20,675,790	20,540,363	135,427
取 入 の 部 合 計	109,220,450	118,646,600	△ 9,426,150

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費 支 出	38,079,740	37,291,580	788,160
教育研究費支出	23,121,890	23,278,464	△ 156,574
管 理 経 費 支 出	2,773,910	2,623,400	150,510
借入金等利息支出	219,740	210,432	9,308
借入金等返済支出	288,880	288,880	0
設 施 間 連 係 支 出	3,943,590	3,468,333	△ 475,257
資 産 運 用 支 出	15,576,920	16,576,925	△ 10,748,635
そ の 他 の 支 出	19,612,300	21,549,994	△ 1,937,694
(437,220)	2,780	2,780	0
[予 備 費]	△ 6,008,618	420,198	△ 6,428,816
次年度維持支援資金	18,136,690	17,695,348	441,342
支 出 の 部 合 計	109,220,450	118,646,600	△ 9,426,150

(注)〔予備費〕は未使用額を表し、()内の額は使用額を示す。



※各科目の構成比率は総収入を100%として表示しています。

消費収支決算の概要

(予算との比較) 注: ▲…増加を示す △…減少を示す

消費収入の部
●手数料
▲入学志願数の増加。
●資産運用収入
▲為替の変動による受け取利息の増加。
●帰属収入
▲合計は26億円以内。予算比で億円の増加。また前年比で14億円の増加となりました。
消費支出の部
●人件費
▲教職員数の差異による減少。
●資産運用の差額
▲建物等の固定資産の維持費用の減少。
●消費支出の部合計
▲22億円となり、予算比で16億円の減少。また前年比で14億円の増加となりました。

(消費収入と消費支出)

帰属収入から基本金組入額を差し引いた総収入と、総費用の差額による減少。

総費用から基本金組入額を差し引いた総費用と、総収入の差額による減少。

総費用から基本金組入額を差し引いた総費用と、総収入の差額による減少。

総費用から基本金組入額を差し引いた総費用と、総収入の差額による減少。

総費用から基本金組入額を差し引いた総費用と、総収入の差額による減少。

総費用から基本金組入額を差し引いた総費用と、総収入の差額による減少。

総費用から基本金組入額を差し引いた総費用と、総収入の差額による減少

平成26年度 科研費の採択結果

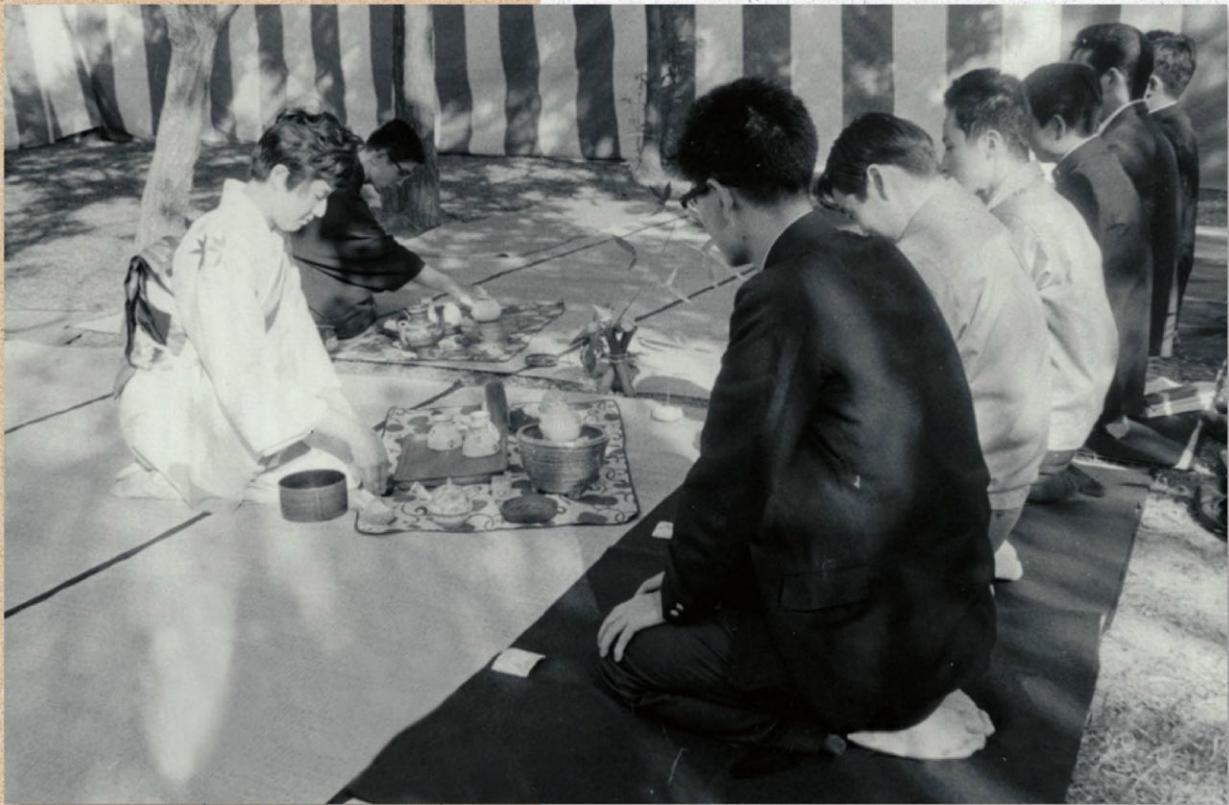
(平成26年7月31日現在 交付決定通知分のみ)

平成26年度 科研費について、次のとおり採択されました。

工学部 助 教 原田 研哉 国光電気光分光計の開発による新規高効率光材料の創製	助 教 高木 実子 肥厚症による末梢性疾患の転化の臨床において「健」となる脳ペリサイトの病変
工学部 助 教 三川 朝郎 岩石を用いた地盤材料の耐久評価手法と地盤品質管理法の確立	助 教 森本 伸生 女子「スクートボルム」の解説
工学部 助 教 松本 宇生 二次元ラマ分光法による電線絶縁部スパン放電の気体加熱の微細構造	助 教 岩崎 正規 基礎理論による分子構造と物理的性質との関連性とその治療効果の解明
工学部 助 教 富崎 信義 エーテント・シミュレーションによるスマートカードレイアウトの最適化	助 教 田中 伸一 高分子性・再生性マテリアルの開発
工学部 助 教 生駒 駿馬 Pd起泡ラフアンを用いたpn撮合の開発	助 教 小原 吉就 HDH生産性をもつ次世代型電子導入導入システムの開発と臨床応用
工学部 助 教 田中 伸一 鋼とコンクリートを繋ぐ革新的な手止めの開発とその合理的設計手法の確立	助 教 森本 丈二 地下古文書を用いた地盤防護患者の嗜好下層評価に関する研究
医学部 講 師 今任 研祐 複数遺伝子多型と生活習慣病・生活習慣病リスクに与える影響に関する疫学研究	助 教 佐藤 哲也 脳卒中予防のための脳梗塞の早期発見と治療
医学部 講 師 井上 伸洋 大腸癌小管構築における癌細胞異常増殖のメカニズムの解明	助 教 田中 久 脳卒中の予防法の確立を目指す
医学部 講 師 白須直人 がんの脳梗塞環境の包括的治療を指向した高活性光免疫療法の開発	助 教 岩田 光就 脳梗塞に対する化学会療法感受性の検討による分子生物学的確立
医学部 講 師 霜井誠 ミコンドリア+α2+交換体の機能制御とその破壊による病態生理	助 教 渡辺 光則 食塞性高血圧におけるヒト肥満細胞キマーゼの割合解明
医学部 講 師 石川 マコ 地域社会の精神保健・心身統一観による精神疾患の発病原因に関する基礎的研究	助 教 佐々木 由生 SHG微鏡による増殖性疾患と疾患現象タクシックの効率的スクリーニング
医学部 講 師 田中 一 循環促進セクターアクティベーターの開発	助 教 野田 寛 プロトタイプ開発の生産開始から導入と運用強度化に関する研究
医学部 講 師 伊藤 香太 クラジア感染症薬としての可能性を始めたハイブリッド研究	助 教 井上 隆司 基礎理論によるヒューリスティックアプローチによる効果検証
医学部 講 師 大谷 志希 水溶性ラフレン/コヒキノイキを用いた形態開拓症の新規治療法の開発	助 教 池添 春喜 防衛性能を有する新面修復材の開発に関する研究
医学部 講 師 佐佐木 伸 抗VLA-4抗体Cathelicidinによるマスク白色色素の推進促進過程の解析	助 教 中西 恒夫 プロトタイプ開発の生産開始から導入と運用強度化に関する研究
医学部 講 師 合田 伸一 地域支援センター保険料負担軽減化ための教育プログラムの開発	助 教 野田 寛 基礎理論によるヒューリスティックアプローチによる効果検証
医学部 講 師 西村 和美 中高年女性における尿失禁予防ための内臓筋筋膜肥厚改善プログラムの開発	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による含蓄水比活性化による地盤改良技術の開発
医学部 研究員 川内 結美 新規AI自走式微生物アバランチの開発と半自動化技術のオーバーマーの確立	助 教 佐藤 喬倫 階層構造とアクセス方式で同時に改善するモダリティの研究
医学部 講 師 道具 伸一 「脳梗塞と血栓性閉塞性脳梗塞」の発病機序と治療法の解明	助 教 田中 久 ジグマトリー論に基づく循環器病の治療方針の計画法と合意形成法に関する研究
医学部 講 師 防 練 織りこみ構造の蛋白モノリソングによるかびアブリクライマ病診断法の開発	助 教 渡辺 光則 HDH生産性をもつ次世代型電子導入導入システムの開発と臨床応用
医学部 講 師 伊藤 香太 神経疾患因子の補充療法を替わる脳梗塞による認知症治療法の模索	助 教 森山 茂哉 福岡大学の多角的・総合的な研究の示す効率化
医学部 講 師 古賀 光一 脳梗塞の発症リスク評価と予防法の開発	助 教 佐藤 明宏 生体活性と力学的適合性を有するマクロロード構造の人工開通の開発
医学部 講 師 金子 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 沢添 恒喜 公共施設施設における運用強度の機能変遷の検討と長期利用空間モデルの構築
医学部 講 師 平野 雅巳 発揮力を發揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 田中 伸一 自己組織化ナノ粒子によるヒト骨髄細胞の活性化と細胞膜新規メリ素子の実現
福岡大学病院 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 田中 宏樹 超音波を用いた超細胞・超細胞による再生能と治療用材料の創製
福岡大学病院 講 師 今泉 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 渡辺 真一 博多湾内浅瀬地帯の復元と伴う底質環境の構造回復過程評価と環境創造効果の定量化
福岡大学病院 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 秋山 美久 サッカーワークにおける被覆人間頭頸部の計測モデルとシミュレーション評価
福岡大学病院 講 師 安野 岳志 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
福岡大学病院 講 師 三浦 崇晴 Perry症候群の病態解明研究	助 教 岩本 隆宏 SLC41輸送群によるMg ²⁺ 調節機器とその破壊に基づく病態疾患
福岡大学病院 講 師 田中 伸一 子宮内膜症における解剖学的・病理的・生物学的検討	助 教 内尾 美一 アデノウイルス感染症の新しい薬物治療の要求と臨床実用化に関する研究
福岡大学病院 講 師 田中 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 田中 伸一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
福岡大学病院 講 師 田中 伸一 北極海周辺の海鳥糞:海鳥からの粒子發生とコロストラム	助 教 佐藤 春美 光周波共鳴と共振幅値レーダーを利用した超高分解能レーダー光
福岡大学病院 講 師 田中 伸一 メントール無作為群比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索	助 教 佐藤 文男 昆虫における機械感覚器から温湿度への進化に関する經緯生物学的研究
福岡大学病院 講 師 久保 伸一 ヒトの脳の高MRNアーリーとした脳の発育:個人識別の新たな展開	助 教 岩本 隆宏 理屈を用いた組合せアプローチによるMg ²⁺ 調節機器とその破壊に基づく病態疾患
福岡大学病院 講 師 久保 伸一 高齢者における心筋梗塞の発病:個人識別の新たな展開	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
福岡大学病院 講 師 久保 伸一 PWSにおける食欲亢進および性格異常の原因因子の解明	助 教 渡辺 真一 博多湾内浅瀬地帯の復元と伴う底質環境の構造回復過程評価と環境創造効果の定量化
福岡大学病院 講 師 久保 伸一 理能性でんかんにおける筋子嚢細胞の解明	助 教 秋山 美久 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
福岡大学病院 講 師 久保 伸一 CD6を標的としたがん治療用抗腫瘍薬の開発	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
福岡大学病院 講 師 久保 伸一 ヒトの脳の高MRNアーリーとした脳の発育:個人識別の新たな展開	助 教 岩本 隆宏 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
福岡大学病院 講 師 久保 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 内尾 美一 アデノウイルス感染症の新しい薬物治療の要求と臨床実用化に関する研究
福岡大学病院 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 田中 伸一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
福岡大学病院 講 師 安野 岳志 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 光周波共鳴と共振幅値レーダーを利用した生活習慣病的原因因子の探索
福岡大学病院 講 師 田中 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 田中 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 田中 伸一 脳梗塞の生じるまでの効率的評価	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 田中 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 平野 雅巳 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 岩本 隆宏 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 HCVウイルス感染症における免疫逃げ戦略の解明	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 脳梗塞の代謝実験モデルを用いた物質評価と天然素材からの脳梗塞保護の探索	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 発揮力を発揮した一過性有脈性運動の作業能力と被覆因子による効率化の検討	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 「脳梗塞」における脳梗塞の発病原因の検討	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 アボルト標準ペプチドによる未動植物疾患の多面的治療略路	助 教 佐藤 基一 竹チップの吸水性による地盤改良技術の開発
医療部 講 師 伊東 伸一 バイオ人工耳移植の構造:適度な構造部の形成および移植早期炎症反応の検討	助 教 渡辺 真一 骨盤の構造と形状における骨盆底筋肉の構造に関する研究
医療部 講 師 伊東 伸一 先天性疾患解剖症特異的p53細胞の疾患モルヒネ用いた治療法の開発	助 教 佐藤 春美 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一 Perry症候群の病態解明研究	助 教 佐藤 文男 ヒト骨盤構造比較アプローチを利用した生活習慣病的原因因子の探索
医療部 講 師 伊東 伸一<br	

Archive

あの日からの贈り物 GIFT.07



1966

1966年
茶道部の茶会

1号館近くにある「ひょうたん池」の縁に包まれた空間を会場にした七隈祭の茶会風景。

日本古来の美しく豊かな心を伝えるべく稽古に励む姿勢は、今も昔も変わらない。

人として、心ゆたかに

茶道。点前と呼ばれるその所作は
凛として清々しく美しい。

簡素でありながら、深くゆたかな時間を与えてくれる。

学生が集うキャンパス。

そこに根付く伝統は、静かな時間の
経過とともに研ぎ澄まされ、
次世代に永々と受け継がれていく。

福岡大学の教育研究の理念にある人間教育。

人として、ゆたかな心を磨く教育。

80年にわたる独自の伝統や文化は、
そこに生きる人間の知性と感性の源になる。